

いのちの**カガヤキ**が詰まった 広報誌

玉ふれあい 穂だより

2018
1月
冬号

目次 INDEX

2 理事長 新年の抱負
○(医)どちペインクリニックの医療と役割

3 私たちの医療活動を
もっと知ってもらいたい
○各部署紹介

7 トピックス・インフォメーション
○東北支援ボランティア
○忘れな草の会を開催
○インフルエンザを予防するにはどうしたらいいの？

8 編集後記 施設のご紹介

vol.04

TAKE FREE

ご自由にお持ちください

医療法人 どちペインクリニック



(医)どちペインクリニックの

医療と役割



麻酔科医 内科医

どち くにひこ
理事長・院長 土地 邦彦

明けましておめでとございます。
元旦となると、なんとなく「めでたい」。何がめでたいのか分からないけれど、やはり「めでたい」のです。

太陽が一番低く、夜の時間が最も長い「冬至」から10日間が過ぎて、日の出が1分間ずつ早くなるのがなんとなく実感できる頃が元旦なのです。「一陽来復」です。でも、めでたがっているだけでは過ごされないのが今年の元旦ではないでしょうか。

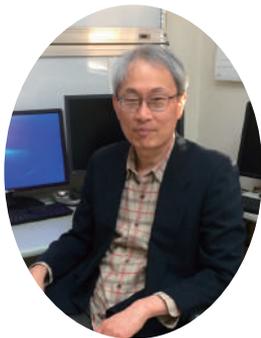
今年一年はどんな年でしょうか? 「平和」と「戦争」がせめぎ合う年ではないでしょうか。北朝鮮のミサイル、中国の海洋進出など危険がいっぱい입니다。さらに、日本国憲法を改訂しようとする動きが早まっていると思われます。日本が再び戦争をする国にならないようにしっかりと見てゆく必要があると考えます。

また、日本の高齢化と人口減少は止めるありません。高齢化世帯や独居老人、認知症と膨れあがる医療需要など課題は山積みです。

基幹病院での急性期医療が済んだ人が在宅(自宅、介護施設)で安心して過ごせるように、その架け橋として有床診療所の入院ベッドがあります。また、在宅にいる人が一時的に具合悪くなった時にも有床診療所は役に立ちます。

私たちは、自宅―施設―入院を有機的に結びつけ、医療を通じて人々の生活を守れるように頑張っていく所存です。どうぞ、よろしくお願い致します。





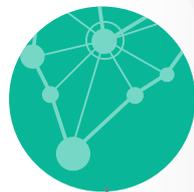
内科医
くすのき まこと
楠 真

「医者の不養生」に
気をつけながら
明けましておめでとうございます。当
診療所で内科を担当している楠です。本
年もどうぞよろしくお願いいたします。
私がこちらで診療するようになって
もうすぐ8年が経とうとしています。土
地院長や大野先生より年下ですが、医者
になって30年経ったので、もう若いとは
言えません。
先日、大学の同級生が数人集まる会合
があったのですが、出てくる話は「検診
で何かと引っかかって検査した」とか
「この前〇〇で入院した」などの病気ネ
タが多くて驚きました。みんな50〜60代
のオッサン達なので仕方がないことか
もしれませんが、本当に「医者の不養生」
を地で行くような状況で苦笑してしま
いました。幸いにも私自身、この間に大
きな怪我や病気はせずに経てきました。
今年も診察に穴をあけないよう、体調
に気を配り1年無事に過ごしたいと考
えています。



内科医
おの の いち
大野 伸一

診療所で学ぶ
「町のお医者さん」
新年にあたり「老医者のつぶやき」を
述べます。
まずは、私の町医者の夢を描いた幼少
期は今から約60年前、小学校に通いはじ
めて数ヶ月後、突然に熱発をしました。
数日もすると倦怠感も出てきたので、近
くの町医者を受診したところ、結核性肋
膜炎と診断され、学校を半年間も休み、
その後、数年間にわたり結核専門病院で
治療を受けたのを覚えています。
このような事があり、小学生時代より
将来の夢は「命に寄り添うお医者さん」
と思うようになりました。
信州大学卒業後は内科学教室で研修、
その後は教育・研究の生活を続け、山梨
大学で長年解剖学を担当しました(山梨
大学名誉教授)。
いつかは夢であった町医者になりた
いと思っていたわけですが、現在では
ここ玉穂ふれあい診療所で患者さんと
家族に寄り添う町医者をしています。



私たちの医療活動を もっと知ってもらいたい

各部署紹介

玉穂ふれあい診療所は、積極的に地域とかわり、
みなさんといっしょに地域づくりを進めていきたく
と考えています。そこで、改めて私たちの医療活動を
みなさんに知っていただくため、各部署の紹介をし
ていきたいと思えます。

玉穂ふれあい診療所が中央市(旧玉
穂町)に開院されて14年が過ぎました。
診療所は患者さんを第一に考え、地
域に根づいた診療所を目指すことも
に、良質な医療を提供できるよう日々
努力しています。
しかし、地域のみなさんの中にも、玉
穂ふれあい診療所のことをよく知らな
いという方もいるのではないでしょ
うか。もしかしたら、まだ一度も玉穂ふれ
あい診療所に来たことがない方もい
るかもしれません。もちろん健康にし
たことはありませんが、地域に根ざし
て活動している玉穂ふれあい診療所の
ことを、もっと多くの方々を知って
いただければと思います。
医局の医師たちの抱負は冒頭で紹介
しましたが、その医師とともに地域に
必要とされる診療所を目指して、多く
の職員が働いています。
みなさんに、診療所の職員が日頃ど
んな思いを持って仕事をしているか、
各部署の業務内容やメッセージを紹介
します。

事務

みなさんを笑顔でお迎え

玉穂ふれあい診療所で患者さんと一番最初に接するのが私たち事務部門です。心配や不安なこと、お体に具合の悪いところがあつて来院される患者さんが安心して受診できるように、親切丁寧な対応を心がけています。



ふれあい診療所の顔としてがんばっています

あれ！もしかしたら認知症？ なんでもご相談ください

こんにちは。私たちは外来看護師の3人娘です。外来は、麻酔科(ブロック治療)・内科(慢性疾患)・一般外科・漢方医療と多岐に渡っていますが、明るくみなさんを迎え、安全に診療できるように努めています。



3人娘が笑顔でお迎えます

外来

り、安心して帰っていただければと思います。患者さんを出迎え、そして送り出す、診療所に来てくださった患者さんに、最初と最後に接する私達だからこそできる気遣いがあると思います、日々業務に励んでいます。不安なことや気になることがありましたら、お気軽に声をおかけください。



往診・訪問診療もしています

身体の痛みで苦しんでいる方、ケガをした、熱が出た、お腹が痛い、吐いたなど、ひとまず私達にご相談ください。適切な処置を行い、症状に応じた専門医への連携を行います。

その人が、その人らしく生きることを支える医療を大切にしています。身近なかかりつけ医として、柔軟な対応で地域のみなさんのお役に立ちたいと考えています。

通院が大変になった患者さんには自宅に訪問して診察・治療も行います。(いわゆる往診・訪問診療です)

また、院長は認知症サポート医として認定を受けており、中央市より「認知症初期集中支援チーム」の委託を受け認知症の相談にものっています。「あれ：もしかして…認知症？」と心配になりましたら、お気軽にご相談ください。地域のみなさんの笑顔を守ることを大切に、地域に求められる医療が提供できるようにがんばっています。

検査

乳腺エコーは 女性技師が行っています

玉穂ふれあい診療所診療所では地域のかかりつけ医として、定期的に受診して検査をされる患者さんが多くいます。また、近隣の事業所での職員検診で利用される方もいます。

近年、若い女性の乳癌についてマスコミに取り上げられることが多くなりましたが、乳腺が発達している若い世代の場合、マンモグラフィでは乳腺が白っぽく映ってしまい判定しにくくなるため、乳腺エコー検査の方が有効とされています。また、X線のような被ばくもないので、妊娠中でも検査ができ、時間はおよそ15分です。

当診療所では、日本超音波医学会の認定を受けた女性の超音波検査技師が検査を行っています。

例えば過日こんな話がありました。超音波検査を行い小さな腫瘍が見つかった患者さんを高度医療病院に紹介しました。その患者さんは、医師から「こん



エコー・心電図の検査室



病棟前の畑には季節の野菜が...

「あっ、畑があるんだ。」「ワンちゃんもいる！」と病棟を訪れた人達が驚きます。セラピー犬のリリーとラッシュ、猫のビリが我が家のように自由に遊んでいます。また、中庭は山野草を中心としたビオトープの庭です。小さな池にはメダカや金魚がいます。

その人らしい生活を目指して

病棟

な小さな腫瘍がよく見つかったね。あなたは運がよかった」と言われ手術を受けました。現在は元気に生活されています。

私たちは、このように必要な検査を行い、専門医療機関との連携を大事にしています。安心してご相談ください。



露天風呂もあります

このような環境が成り立っているのも地域のボランティアのおかげです。幼稚園児から高齢者まで幅広い年齢層の方たちが、自分の特技や才能を活かしてボランティアに来てくれます。病棟内では時として子どもの声や赤ちゃんの笑い声が聞こえてきます。廊下を走る足音が聞こえる時もあります。その人にとって当たり前の日常が入院中も感じられるようにと考えています。

また、当診療所の特徴としてかけ流し天然温泉があります。温泉のある診療所（ホスピス）は世界中を探しても当診療所しかないでしょう。入院中に温泉に入れるのはとても幸せな環境だと思います。

ここに入院してくる患者さんは癌の方ばかりではありません。「熱が出た」「ご飯が食べられない」「帯状疱疹の痛み」など様々な方がみえます。

退院時には地域連携室とともに専門医、各機関との連携をとり、住み慣れた地域で安心して暮らせるように退院調整を行っています。

地域連携室

患者の思いに寄り添い
思いを繋ぐ

当診療所に地域連携室が出来て8年になります。地域連携室は、患者さんの入院や外来診療に、地域の医療機関や訪問看護ステーション、行政、関係機関などとの連携を行うところです。

私たちは、患者さんやその家族の心配事を解決するために、協働作業で病む人の気持ちを大切にして、安全な医療が受けられるように情報発信に努めています。



私たちにご相談ください

厨房

家庭料理のような温かみを

病室から眺める畑...。日当たりも良く患者さんは畑で育つ作物を通して季節を感じることが出来ます。収穫した



お正月にはおせち料理も食卓に並びます

野菜や地域のみなさんに差し入れてもらう野菜を中心に、私達は患者さんや家族に食事提供をしています。

特に大切にしていてる事は、患者さんが食べたいものを少しでも口にできるように工夫していることです。

先日、入院中の家族が「うちのお父さんは、昔はこんなものを好きだったんだよ」とみょうが味噌の話をしてくださいました。早速教わったとおりに作り、味わってもらったところ大変喜ばれました。数日後に退院した男性患者さんとの大切な思い出で、一食一食を大事に提供していきたいと感じた出来事でした。

これからも、患者さんや家族の声を大切に、入院患者さんが笑顔になれるような、素材の味を生かした食事提供を行っています。

訪問 リハビリテーション

その人にあったリハビリを

訪問リハビリは、病気や障害をきっかけに、自宅から出る機会が少なくなった方のお宅にリハビリ職員が伺い、その人に合ったリハビリを行います。

安全に自宅で生活するために必要な、起きる、立つ、歩くなどの基本的な動作の訓練や福祉用具の提案を行ったり、外への散歩に行くことがリハビリになる方など内容は様々です。最近では癌を患い、リンパ浮腫になった方のリンパドレナージを行うことも増えてきています。その人らしく自宅で生活するために、「何事もチャレンジ」をモットーに日々奮闘しております。

訪問看護 ステーション

その人らしく 地域で暮らすお手伝い

「こんにちはは、玉穂訪問看護ステーションの看護師です。」元気な声と笑顔で利用者さんのお宅に伺います。

玉穂訪問看護ステーションは、(医) どちらへインクリニックの法人内の事業

所です。

訪問看護とは、利用者さんが住み慣れた家で自分らしく、一日一日を安心・安全に暮らせるよう、看護師が各医療機関と協働作業を行いながらサポートします。家に居ても入院中の医療がそのまま継続できます。また、利用者さんの生活状況に合わせて、行政などの関係機関と連携を取り、それぞれの専門性を発揮し、利用者さんにサービス提供を行います。そのほか地域の民生委員、近所のみさんの力もお借りしています。

毎日の生活の中で不安なこと、困っていることを、関わる全ての人たちが一つのチームとなって支援をしています。

私達訪問看護師は利用者さん・家族の近くにいつも寄り添っていきたくと考えています。「看護師さんが来てくれて安心。何でも相談できるし、何かあったら夜でも連絡できてすごく心強いです」と言ってもらえることが一番の励みです。



今日も血圧は大丈夫だね

総務

地域のみなさんの 温かな心に感謝

私たちの部屋は2階の奥にひっそりとあります。男所帯で、診療所の「縁の下力持ち」を自負しています。

仕事は、患者さんの命を運ぶ救急車や外来受診の送迎車の運転、自給自足の畑づくりなど、地域のみなさんとの交流を楽しみ、力も借りながら頑張っています。

私達の大切にしている仕事の一つに、院内2か所にある薪ストーブの管理があります。ストーブの自然な温もりは人の心まで温めてくれます。病棟では入院中の患者さんや家族同士がストーブの周りに集まり、温かさを囲みながら胸の内を話し合う、そんな場所でもあります。「心が落ち着くと眠気も誘い、気持ちよく休むことが出来ます。」こんな話を患者さんから聞くのが、私たちの大きな喜びです。



猫のピリもお気に入りの場所

地域から「薪を集めたので取りに来てください」と声をかけてもらつと、私たちは大きな温情に心癒され、温かな気持ちになります。

喫茶

誰でも気軽に利用できる 「ふれあい喫茶」

診療所の玄関右隣にある「ふれあい喫茶」。コーヒーの香りが漂い、人気のパン屋さん「空我」のパンも販売しています。

ちいさな場所ですが、近所の人たちや、患者さん・患者さん家族の交流の場所であり、悩みを打ち明けたり、泣いたり笑ったり、ホッと一息つける場所でもあります。

また、疲れているときはアロママッサージも受けられます。みなさん、お気軽にお立ち寄りください。



【入荷日】月曜日：午前9時30分
水・金曜日：午前11時
※ご予約も可能です。

Topics

11月18日 (土)



東北支援ボランティア ～つながる心 つなげる想い～

(医) どちらペインクリニックでは地域とのつながり、人と人とのつながりを大切にしています。その取り組みのひとつに、毎年一度の東北支援のボランティア活動があります。

昨年11月18日には、福島県いわき市の被災者住宅を訪れ、山梨名物“ほうとう”と山菜おこわを炊き出しし元気づけました。

また、いっしょに参加した音楽療法士のグループ“音だまクラブ”の歌と演奏では、参加者も一緒に歌いながら楽しみました。

12月9日 (土)

忘れな草の会を開催

みなさんはグリーフケアという言葉を知っていますか。グリーフケアとは大切な人を失った喪失感や悲しみを乗り越えようとしている人たちに寄り添い、援助していくことです。(医) どちらペインクリニックでは、同じ体験をされた方々と職員が集まり、故人を偲び一緒に泣いたり笑ったり、気兼ねなく語り合える会『忘れな草の会』を開いています。

12月9日の会では、会員のみなさんが楽しかったこと、辛かったことなど、それぞれの思いを語り合い、第2部の「オルケスタ・フェニックス」によるマンドリンコンサートでは、心安らぐ音色に耳をかたむけ、落ち着いたひと時を過ごしました。



インフォメーション

効果的です。と、より



肺炎球菌ワクチンは、インフルエンザ予防接種と同時に接種すると、より効果的です。

点滴薬があります。当院では、症状に合わせて漢方薬での治療も行っています。

【感染時の対応】

インフルエンザと風邪では治療薬が違います。インフルエンザであっても48時間以上経過していると抗インフルエンザ薬の効果はなくなりません。抗インフルエンザ薬には①内服薬②吸入薬③点滴薬があります。

効果的なのは、「予防接種」を受けることで、インフルエンザの症状を抑えることが出来ます。予防接種後効果が出るまで2週間、その後、5か月ほど効果は持続します。

インフルエンザを予防するにはどうしたら良いの？

編集後記

新しい年を迎え、今回は玉穂ふれあい診療所の、普段みなさんとお目にかからない部署や部門も含めて私たちの新たな思いを掲載しました。

昨年は大雨による被害が相次ぎましたが、激しい風雨の中でじっと耐えている木々には、何事にも動じない強さを感じました。診療所も、嵐に負けない木々のように、困難な時もここにあり続け、進み続けたいと思います。

私たちの小さな仕事が、地域のお役に立てるよう願って、これからも頑張っていきます。

ただいま診療所内では、スプリンクラーの設置工事を行なっています。期間は3月中旬までの予定です。



大変ご迷惑をかけますが、ご協力をお願いいたします。

施設案内

玉穂ふれあい診療所

〒409-3815 山梨県中央市成島2439-1

☎055-278-5670



●総合診療(一般内科)

生活習慣病(高血圧・糖尿病・高脂血症)、急な病気やけが、健康診断、職場健診、禁煙外来、予防接種

●ペインクリニックー痛みの総合的診療ー

帯状疱疹(後神経痛)、頭痛、肩こり、顔面痛、首の痛み、椎間板ヘルニア、がん性疼痛、鞭打ち損傷、顔面神経麻痺、突発難聴など

●在宅医療

寝たきり又は、寝たきりに準じた方の訪問診療(訪問看護)

●漢方医学ー漢方医学的診断に基づく保険診療ー

易疲労、食思不振、便秘、下痢、冷え、頭痛、めまい、肥満症、神経性胃炎、慢性疲労症候群、過敏性腸症候群、更年期障害、アトピー性皮膚炎

●緩和医療ーホスピスケアー

症状コントロール、家族も含めた心のケア、療養についての相談

●入院ー緩和ケア(ホスピス)医療のできる入院施設ー

自噴温泉、特殊浴槽、ゆったりとした病室、自然の中で暮らせる環境

●訪問リハビリテーション

診療時間

一般外来	月	火	水	木	金	土
午前9時～正午	○	○	○	/	○	○
午後3時～6時	/	○	/	/	○	/

玉穂訪問看護ステーション

〒409-3815 山梨県中央市成島2439-2

☎055-240-3366



●看護・医療処置

定期的な病状観察(体温・脈拍・呼吸数・血圧測定)、注射・点滴・採血などの処置、服薬指導/管理、褥瘡予防/処置、排便コントロール、各種カテーテルの管理(胃ろう/膀胱留置カテーテルなど)、在宅酸素療法の管理、人工呼吸器の管理、機能訓練/口腔機能訓練、四肢の関節可動域運動、緩和ケア(精神的ケア/家族支援/看取り)

●日常生活の援助

食事指導、清潔援助(口腔ケア、清拭、入浴介助、更衣など)、排泄援助

●介護の相談

日常生活全般における介護方法についての指導、保健・福祉サービスについての情報提供

交通案内

